



Loneliness, Belonging, and Group Dynamics: A Social Identity Approach

孤独は、単なる個人の問題なのでしょうか？

2025 木

6 / 5

16:30-18:00
(日本時間)

北海道大学大学院
保健科学研究院
C棟6階大会議室

Zoomによるオンライン配信
(ハイブリッド開催)

使用言語：英語

※Zoom参加をご希望の方には、
前日までにリンクをお送りします。



本セミナーでは、社会的アイデンティティ・アプローチ (Social Identity Approach) の視点から、孤独、帰属感、そして集団ダイナミクスについて国際的に活躍する2名の研究者が講演を行います。

メンズシェッドの事例や社会心理学の最新知見を通じて、孤立を予防し、人々のつながりを支えるための新たな視点を提供します。

学内外を問わず、どなたでもご参加いただけます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

参加無料

事前申込制

Session1

A Social Identity Approach to Men's Sheds: Exploring the intersecting group dynamics and their influence on older men's health and loneliness

Mr. Daniel Martin

PhD Candidate,
Nottingham Trent University



Daniel氏は英国でメンタルヘルス支援に従事した後、高齢男性の健康と孤独に与えるメンズシェッドの影響について、社会的アイデンティティ・アプローチを用いて博士研究を行っています。本講演では、メンズシェッドにおける多様な集団力学 (グループ・ダイナミクス) に注目し、健康や孤独感の改善にどのようにつながるのかを検討します。

Session2

Is Loneliness Only an Individual Problem?
A Social Identity Perspective on Collective Loneliness

Professor
Clifford Stevenson

Professor of Social Psychology,
Nottingham Trent University



孤独を「個人の体験」としてのみ捉える従来の見方に対し、Stevenson教授は、帰属集団の喪失や社会的排除などの関係的要因に注目した理解を提起します。本講演では、社会的アイデンティティ・アプローチに基づく理論と、それに基づいた効果的な介入の可能性について解説します。

なお、本講演は、2025年に Edward Elgar Publishing より刊行予定の Research Handbook on Loneliness and Social Connection に基づいており、Stevenson教授はその第10章 "Social Identity, Social Connection and Loneliness" を、Niamh McNamara准教授 (Nottingham Trent University) および高島理沙講師 (北海道大学) と共同執筆しています。

参加申込方法：申込フォームより
2025年6月1日(日)までにお申し込みください。
[<https://forms.gle/8pyst8zMmfSK4R8N7>]



■共催■

北海道大学「シチズンサポートプロジェクトによる社会的孤立・孤独の一次予防」研究班
学変(A)当事者化行動科学「性的少数者の保健医療者がもつ物語性：専門職性の発達における影響」研究班
北海道大学大学院保健科学研究院

お問合せ先：
北海道大学保健科学研究院
高島理沙 risa-t@hs.hokudai.ac.jp